



各位

国立国語研究所

国立国語研究所宮地裕日本語研究基金 「学術賞」「学術奨励賞」受賞者を決定しました

国立国語研究所（大学共同利用機関法人 人間文化研究機構）は、宮地裕日本語研究基金「学術賞」「学術奨励賞」の受賞者を決定しました。

宮地裕日本語研究基金は、故宮地裕氏（大阪大学 名誉教授）の遺志に基づいた寄附金により、日本語研究の振興に供するために、令和4年6月に創設したものです。

基金の事業として、このたび第2回「学術賞」「学術奨励賞」募集を行い、受賞者を決定しましたのでお知らせいたします。

第2回 国立国語研究所宮地裕日本語研究基金学術賞

日本語研究（琉球語諸方言を含む）及びこれに関連する分野における、個人又は団体の優れた研究活動1件に対して、本賞（賞状）及び副賞（賞金500,000円）を贈呈します。

■学術賞

氏名（所属）： 上野 和昭 氏（早稲田大学）

研究業績： 『名目鈔声点本の研究』（武蔵野書院、2021年）

授賞理由： 本書は、『名目鈔』に声点が差された諸本の差声状況を丹念に整理し、アクセント変化や差声観の変化について跡づけようとしたものであり、学術賞にふさわしい業績であると判断した。

第2回 国立国語研究所宮地裕日本語研究基金学術奨励賞

日本語研究（琉球語諸方言を含む）及びこれに関連する分野において、優れた研究を収めた若手研究者2件に対して、本賞（賞状）及び副賞（1件につき賞金300,000円）を贈呈します。

■学術奨励賞 今回該当1件のみ

氏名（所属）： 山田 彬堯（大阪大学）

研究業績： 定量的・類型論的視点を取り入れた学際的敬語研究

授賞理由： 本研究は、従来の伝統的研究を越えて数理的な研究を押し広げようとしている姿勢や新たな研究手法は大いに評価できる等の前向きな評価より、学術奨励賞にふさわしい業績であると判断した。

国立国語研究所にて授賞式を開催します

第2回宮地裕日本語研究基金「学術賞」「学術奨励賞」授賞式を開催いたします。

■日時：令和6（2024）年7月31日（水）16：00～17：30

■場所：国立国語研究所（東京都立川市緑町10-2）

※オンライン（Web会議サービス「Zoom」を使用）参加もできます。

来場・オンラインどちらも事前の参加申し込みが必要です。

参加をご希望される方は、7月24日（水）17：00までに、国立国語研究所Webサイトよりお申込みください。

<https://www.ninjal.ac.jp/research/miyaji-fund/miyaji-award-winner/>

宮地裕氏の紹介

宮地裕氏（1924-2021）は、日本語学者、大阪大学名誉教授。文学博士（大阪大学）。京都大学で学んだ後、京都府立西京大学助手、国立国語研究所話しことば室長、大阪大学文学部教授、同学部長、さらには帝塚山学院院長などを歴任。その研究は、現代日本語の文法と表現（特に慣用句、敬語）から国語教育・日本語教育など多岐にわたる。数々の論集や講座シリーズの編集、また雑誌『日本語学』の監修にもたずさわり、多大な影響を残した。著書・編著書に、『文論』（明治書院1971年）、『新版 文論』（明治書院1979年）、『慣用句の意味と用法』（明治書院1982年）など多数。

第3回募集については、令和6年夏にご案内いたします。

詳細は、国立国語研究所Webサイトをご覧ください。

<https://www.ninjal.ac.jp/research/miyaji-fund/>

【参考：過去受賞者】

第1回宮地裕日本語研究基金「学術賞」

該当者なし

第1回宮地裕日本語研究基金「学術奨励賞」

秋田喜美 氏（名古屋大学）『オノマトペの認知科学』（新曜社、2022年）

菊地恵太 氏（宮城学院女子大学）『日本略字体史論考』（武蔵野書院、2022年）

【問合せ先】

人間文化研究機構 国立国語研究所 管理部研究推進課

住所：〒190-8561 東京都立川市緑町10-2

Tel：042-540-4314（平日9:30～17:00）

E-mail：suishinka@ninjal.ac.jp